

夢見る宇宙

第7話・天空に結ぶ エンゲージ・リング

空を飛びたい——それは翼を持たぬ人類の願い。人類は古くからいつだって空を目指し続けていた。ギリシャ神話のイカロスに始まり、あの天才レオナルド・ダ・ヴィンチも自力飛行の為の装置を熱心に研究したという。ライト兄弟が飛行機を作って百年以上の時が流れた今も、我々人類は地球の重力という鎖に縛られている、その事実は変わらないままだ。いつだって人は空に憧れている。あきらめたはずなのに、気がつけばいつも、空を見つめてた。

「日蝕？」
彼女が見せてくれた写真に写っていたのは、真っ暗で広大な荒野にたたずむ真紅のシルエットだった。その頭上には不思議な輝きが金色の指輪のように美しく

燃えている。

「日蝕は凶兆と言われる。これを探そうなんて、不吉なんじゃない？」

「あら、知らないの？ 金環日蝕は、覚醒や再生を意味しているのよ」

思えば届きそうに無い空に自分の未来重ねて僕は腐ってた。聞こえない非難の声や根拠無い推測に勝手に傷ついてた。気づけなかった。信じて、待っていてくれる人たちのことを。

「この**エクリプスクロス**が販売されたら、世の中の人はみんなびっくりするかもね」

「**クリンディーゼルターボエンジン**、**8AT**、**今までの三菱車には無い運転感覚**を約束できる**ラグジュアリーなSUV**だもの。これこそ再生……、ううん。覚醒よ行きましよう、この先で**エクリプス**が、私たちの明日が待ってる」

頭をあげた君に続いて、僕も立ち上がってみる。

「うん、行くよ！」

やっぱり僕は空を目指そう。翼は無いけど、踏くこともあったけど。一歩ずつでいい。オレンジの光をたどって、その先の覚醒へと向かおう。

つづく

もうすぐ逢えるね。

一歩先へ向かうオレンジ色の滑走路。

決算!

アクティブフェア

開催中!